



バングラデシュ

金融関連：モバイルファイナンスサービス(MFS)のスタートアップ

■ 調査日：2016年8月

■ 場所：ダッカ

■ バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh

— 基礎データ —

- 面積：14万7,570平方キロメートル
- 人口：1億6,175万人（2016/17年度 バングラデシュ統計局）
- 首都：ダッカ／人口約1,204万人（2011年 統計局）
- 名目GDP総額：2,279億ドル（2016年 推定値）
- 1人当たりの名目GDP：1,411ドル（2016年 推定値）
- 実質GDP成長率：6.92%（2016年 推定値）
- 為替レート：1ドル≒ 78.47 バングラデシュ タカ（2016年 期中平均値、本文中は「タカ」と表記）

出所：JETROホームページ 国・地域別に見る「アジア バングラデシュ概況（2017年6月更新）」



モバイルファイナンスサービス(MFS)市場の概要

バングラデシュのMFS市場において1日の平均取引額は4,744万ドル、1日の平均取引数は257万件（2015年2月時点）と言われている。

MFSガイドラインの施行から数年で、この分野は著しい成長を遂げている。なお、バングラデシュのMFSプロバイダーは銀行主導のモデルに従っているため、販売されているすべてのMFS商品は銀行またはその子会社によって運営されている。バングラデシュ銀行は28の銀行に対してMFSの提供を認めている。そのうち19の銀行はすでにMFS商品への取り組みを何らかの形で開始しているが、規模の大小を問わず営業を開始し、MFSを提供している銀行はその内10しか存在しない。あとの銀行は依然として、取引のためのプラットフォーム、パートナーとの契約条件、ビジネスモデル、ビジネス戦略などをまとめている最中である。



DBBLのモバイルバンキングのポスター。エージェントの住所が印刷されている。

〔バングラデシュにおけるMFS市場の動向〕

MFSの主な指標	エージェント*1数	登録顧客数(人)	取引数(件)	取引額(百万ドル)
2013年1月	6万	500万	1,000万	301
2013年12月	18万9千	1,318万	3,136万	862
2014年1月	41万4千	1,670万	4,401万	1,110
2014年12月	54万1千	2,520万	7,447万	1,361
2015年2月	54万3千	2,587万	7,699万	1,423

*1:「エージェント」…MFSのサービスに関する各種手続きを行う窓口の役割を果たしている。

出所：2015年度 バングラデシュのMFSに関する報告書(USAID作成)

◆リテール金融商品市場の概要

バングラデシュには全部で56の銀行と、34の非銀行系の金融機関(NBFI)が営業しており、多くの銀行やNBFIでリテール金融商品を扱っている。その中でも消費者金融市場は成長著しく、2015年6月時点の市場規模は5,226億タカ。2013年12月時点で2,960億タカ、2014年12月時点で4,510億タカと成長しており、その成長率は前年比52%となっている。

消費者金融市場の総計が民間金融機関による総融資額に占める割合は、2013年の7%から10%(2015年6月)に成長している。今後、消費者金融市場は、2016年までに総融資額の12%、2020年までには20%に達すると予測される。

出所：mutual trust bank ビジネス月評(2015年10月)

モバイルファイナンスサービス(MFS)市場の概要

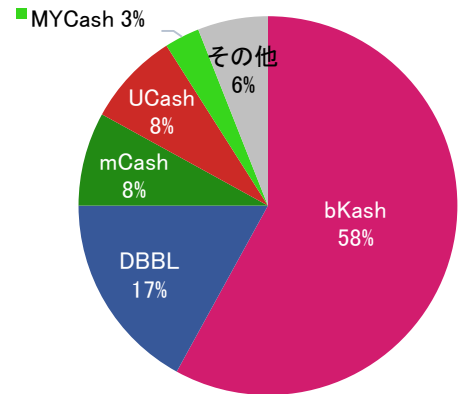
MFSの市場シェア(2015年2月時点)

bKashは、MFS市場で半数以上のシェア占めている。第2位のDBBLの加入者は全体の約6分の1を占め、残りのMFSプロバイダー8社を合計した市場シェアは全体の約4分の1になる。これら主要な会社は、既存の銀行の資源(ATMや支店)を活用することでMFSの拠点を拡張し、国内全体のエージェントを獲得することに重点を置いてきた。これらのMFSプロバイダーがターゲットとしている集団は、銀行口座を持たない層である。

bKashは、「bKashと言えばモバイルファイナンスサービスのことだ」と言われるほどまで人々の意識に定着し、市場を創出した点で重要な役割を果たした。市場の成長は、主に国内取引が要因である。最もよく利用される取引の種類は、預け入れ(全取引の42%)、引き出し(37%)、個人対個人(P2P)の取引(19%)である。2015年2月時点では、預け入れによる取引総額は5億9500万ドル、引き出しによる取引総額は5億2300万ドル、P2Pの取引総額は2億6500万ドルとなっている。

出所: 2015年度 バングラデシュのMFSに関する報告書(USAID作成)

【加入者数に基づくMFSの市場シェア】



主なMFSプロバイダーとエージェント数

バングラデシュのエージェントはそれぞれ独占的なものではなく、その多くが複数のMFSプロバイダーのエージェントを務めている。エージェント数は、bKashがトップ、次いでDBBLとなっている。

MFSプロバイダー	運営銀行	エージェント数※	銀行の支店数	ATM台数
bKash	BRAC Bank Limited	135,000	155	300
DBBL Mobile Banking	Dutch-Bangla Bank Limited	116,000*2	136	3,005*4
mCash	Islami Bank Bangladesh Limited	86,238*2	294	450
MyCash	Mercantile Bank Limited	95,274*3	100	720
UCash	United Commercial Bank Limited	105,000*2	156	103
IFIC Mobile Banking	IFIC Bank Limited	88,891*2	120	49
Trust Bank Mobile Money	Trust Bank Limited	20,000	152	152

※エージェント数は、バングラデシュ銀行が個々の運営銀行から数字を集め、その後集計を行ない算出。1つのエージェントで複数カウントされたものを含む延べ数であり、そのためエージェントの実数は、集計数より少なくなると予想される。

*2: MobiCashのエージェント65,000を含む(MobiCashは、Grameenphoneが運営するサードパーティのエージェント・ネットワーク)。

*3: MobiCashのエージェント61,241を含む。

*4: FastTracksのエージェント300を含む(Fast TrackはDutch Bangla Bankが提供する独自のATMサービス)。

出所: 2015年度 バングラデシュのMFSに関する報告書(USAID作成)

MFS企業の紹介

〔企業名〕 **bKash Limited**

- bKashは、バングラデシュ国内でMFSを提供するために設立された非公開有限責任会社である。モバイルマネー会社としては、ケニアのボーダフォンが運営しているM-Pesaに次ぐ世界第2位の規模を誇る。

■ サービスの概要

bKashは、市場においてモバイルマネーなどの業務を行なっている。利用者は、携帯電話番号とリンクした口座を開設できる。口座開設後は、携帯電話を使用して、指定されたエージェントを通じて、預け入れや引き出しを行うことができる。bKashが行なっている一連のサービスには、預け入れ、引き出し、送金、各種支払い手続き、通話/通信時間の購入、振替、金利が含まれる。



bKashのロゴ

■ 資金源

- 2011年 : bKashは、バングラデシュのBRAC Bank Limitedとの合併事業に着手。
- 2013年4月 : 世界銀行グループに加盟する国際金融公社(IFC)が出資者となる。
- 2014年4月 : Bill & Melinda Gates FoundationがbKashに対して投資を行ない、2,100万ドルの資金を提供。

■ 起業の経緯

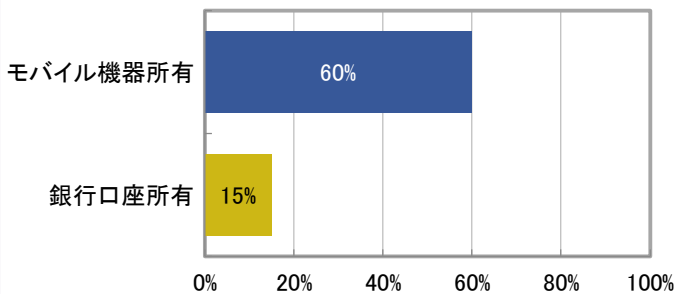
bKashの経営陣によると、バングラデシュの人口の70%以上は農村部で生活しているため、正式な金融サービスを受けることが困難な状況にあると言う。だがこのような状況で生活している人々こそ、離れた場所で生活する家族からの送金を受け取ったり、経済状態を改善するための金融ツールを必要としている。バングラデシュで正式な銀行システムを利用できるのは人口の15%未満にすぎないが、人口の60%以上が携帯電話を保有している。携帯電話は通話用の機器としてだけでなく、あらゆる業務、手続きにおいて有効活用することができる。

bKashのサービスは、バングラデシュ国内のサービスが不十分な遠隔地で生活する人々が、モバイル機器や遍在する遠距離通信ネットワークを活用し、安全な方法での金融サービス利用を可能にするものとして、開発された。



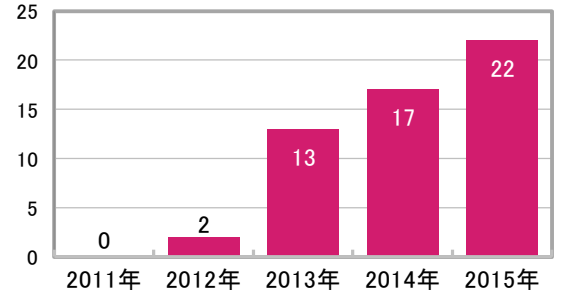
エージェントの店舗(ダッカカジバラ)

〔2010年時点の普及率(n=国内人口)〕



(百万人)

〔bKash利用者数の推移〕



■ ユニークな点

- 便利で、誰でも利用できる、信頼性の高い金融サービスを提供している。
- MFSのためのソリューションを提供し、より大規模なモバイルマネー・プラットフォームを構築することで、バングラデシュの人々がモバイル機器を使用して安全に金銭を授受できるようにしたいと考えている。

■ 今後の事業計画

bKashの理事会と経営陣は、事業を成長させるまでの道のりは長く、まだやるべきことは多いと語っている。大量の取引を支援するため、テクノロジープラットフォームを安定化させる計画を立てており、今後利用者は、エージェント経由の取引から、自分の口座を使用し直接取引できるようにする予定である。また、支払いだけでなくその他の金融サービスにも展開していく計画である。

MFS企業の紹介

〔企業名〕 SureCash

- SureCashは、Progoti Systems Limitedが運営する、バングラデシュ国内の携帯電話ユーザーを対象としたモバイル決済のプラットフォームである。

■ サービスの概要

SureCashは、モバイルバンキングと決済サービスを提供するMFSネットワークを構成している。このネットワークの中には、銀行、NGO、モバイルネットワーク運営者、決済関連会社が参画しており、公共機関、販売・小売業、雇用主、保険組合、政府部局なども含まれる。SureCashのプラットフォームを使用することで、顧客は、学費、公共料金、オンラインショッピング、個人の送金など、さまざまな支払いを、自分の携帯電話から行なうことができる。このサービスは、350以上の支払決済パートナーおよび41,000以上のエージェントと協力して行なわれている。

〔提供しているサービス〕

● 銀行向けサービス

6つの地方銀行と提携して、モバイルバンキングやモバイル決済、銀行業務代行などのサービスを顧客に提供している。

SureCashは、ソフトウェアのプラットフォームや小売店の全国的なネットワークを提供している。

● NGO向けサービス

NGOに対し、オンライン自動決済プラットフォームを提供している。

● 自治体・公共機関向けサービス

自治体や公益事業団体は、SureCashのモバイルバンキングプラットフォームを使用して、顧客から各種料金を徴収できる。

● 商用サービス

企業や団体に対し、いつでもどこでも代金を回収できる柔軟なシステムを提供している。

● 教育機関向けサービス

大学や学校向けに決済プラットフォームを提供している。これにより、教育機関は学費やその他の費用を学生や保護者から自動的に受領することができる。

■ 資金源

SureCashは、2010年にShahadat Khan博士（バングラデシュの起業家）が設立。アジアのフロンティア市場投資会社であるOsiris Groupから700万ドルの資金提供を受けている。

またSureCashは、eコマース業界を専門とする日本の投資家数名からの投資も受け入れている。

■ 企業の経緯

銀行業務は伝統的に支店をベースとして行なわれている。資本支出が多い一方、貸付金や預金額が少なく、インターネットへの接続環境が不十分であるため、銀行は農村部へ支店を出すことができない。この10年間で、現金自動預入支払機(ATM)を導入した銀行もあるが、都市部や主要都市以外の場所にATMを設置することは難しい。そのため、バングラデシュの多くの人々が銀行口座を開設できない状況にある。しかしながら、携帯電話を利用する人々は増加傾向にあり、MFSへのニーズが高まっている。このような状況とコンセプトに基づき、SureCashのモバイル決済サービスの開発に着手した。

■ ユニークな点

SureCashのプラットフォームは複数の銀行と提携しており、消費者はより多くの支払い経路や支払い方法の中から選択できる。SureCashに登録されている銀行であれば、利用者はどの銀行のサービスも自由に受け取ることが可能である。



バングラデシュの銀行とSureCashの間でMFSに関する合意締結の様子。

〔企業名〕 **SureCash** —つづき—

■ 競合他社

バングラデシュで最も一般的に利用されているモバイル決済プラットフォームは以下のとおり。

- Fundamo (VISA系列)
- Sybase 365 (SAP系列)
- M-Pay (国内のSemicon Private Limited系列)
- GENCASH (国内のgenweb2系列)
- Microtechnology (国内のMobile Banking Solution系列)
- Comviva (国際的プロバイダー)

出所: SureCashへのインタビューより

■ 今後の事業計画

SureCashはバングラデシュ国内でサービスを開始しているものの、その他の開発途上国や先進国にもサービスを拡大するビジョンを掲げている。SureCashを、これから数年以内に世界的なモバイル決済ブランドとして定着させることが夢である。



路上に出店するSureCashのエージェント(ダッカ・エレファントロード)



SureCashモバイルアプリの運用がスタートしている。



四半期ごとにミーティングを開き、売上と販売に関する検証を行なう。このミーティングでは、SureCashの技術的な側面や、次の四半期でさらに業績をアップするためのマーケティング目標とロードマップに一層精通することを重視している。また、SureCashは優れた業績を残していることで有名であり、これまで数多くの賞を受賞している。ミーティングではその受賞の立役者に対して賞状を授与している。

MFS企業の紹介

〔企業名〕 SmartKompare

● SmartKompareは、バングラデシュの人々が金融商品（銀行ローン、クレジットカード、普通預金、投資など）をオンラインで比較できる。それは顧客のニーズにふさわしい取引を見つけるのに役立っている。SmartKompareは、バングラデシュで販売されているすべての金融商品に関する有用な情報の分析を行っている。また、金融商品に対する公正な評価と、それぞれの金融商品の特徴を示している。2015年には、Founders Institute Bangladeshにおいてトップ2のスタートアップに選ばれている。

■ サービスの概要

SmartKompareが提供しているものは、大きく分けて、「比較サービス」「問い合わせと申請サービス」「教育用コンテンツ」の3つである。

SmartKompareの支援により、銀行に出向かなくとも、希望する金融商品を手入することができる。またSmartKompareは、顧客と銀行や保険会社などの金融機関との橋渡し役も担っている。リテール金融市場において情報収集と文書処理の事業を行っており、個人ローン、SMEローンなどのリテールバンキング商品を取り扱っている。また、どの金融機関が最も適切なサービスを提供しているか等、顧客によるレビューも行っている。SmartKompareは、多くの人々が金融商品を適切に決定できるよう支援している。

■ 資金源

SmartKompareのオーナーは、最初は自己資金で起業した。その後、国際的なベンチャーキャピタル会社であるFenox Capitalから投資を受けた。ChaldalやIPEグループなどバングラデシュの会社からも投資を受けている。

■ 起業の経緯

SmartKompareのオーナーはソフトウェアのエンジニアであり、12年間ソフトウェア業界で勤務した経験がある。また、iMoneyやFICOなどシリコンバレーに拠点を置くマレーシアの会社との提携を行なったこともある。このような経験を基に、バングラデシュで新たなビジネスを始めたいと考え、iMoneyやFICOからヒントを得て、バングラデシュの顧客向けにSmartKompareを始めた。

■ ユニークな点

銀行などの金融機関ではそれほど頻繁に情報を更新しないため必要な情報が手に入らない場合が多い。SmartKompareは、銀行業務や金融商品に関する必要な情報を提供し、個人ローン、預金、クレジットカード、保険、住宅ローン、自動車ローン、SMEローン等の比較サービスを行なっている。

■ 競合他社 出所: SmartKompareへのインタビューより

会社名	サービスの概要	ウェブサイトURL
Bankcomparebd	金融商品の比較を素早く簡単に行なえる。	https://bankcomparebd.com/
Bankinfobd	バングラデシュの各銀行業務に関する情報を掲載。	http://bankinfobd.com/
AmarPolicy	独自のさまざまな分析や情報を提示することにより、バングラデシュの人々がより良い銀行や金融に関するアドバイスを受けられるように支援している。	http://www.amarpolicy.com/
Policy Market	多くの金融商品の比較を行い、利用者が銀行を選定しやすくするために各銀行のレート、手数料等さまざまな観点から分析を行っている。	http://www.policymarket.com.bd/
bdrates	車やホームローン等の比較ができる、リテール金融情報収集サイトを運営。	http://bdrates.com/



SmartKompareのロゴ



SmartKompareの広告

MFS企業の紹介

〔企業名〕 **SmartKompare** ーつづきー

■ 今後の事業計画

消費者は、休暇や結婚式での出費や、医療費の支払いにも個人ローンを利用できるようになった。個人の消費額は経済の成長により、堅実に増加している。クレジットカードやオンライン決済の利用者数は増加する傾向にあり、今後はより多くの方がクレジットカードを利用したり、融資を受けたりすると思われる。この傾向はSmartKompareの事業創出の源であり、成長を続ける金融市場での事業機会を日々捉えようとしている。



オフィスでのグループミーティングの様子



BRACセンターで開催されたデジタル・ファイナンシャル・インクルージョン・フェアでのSmartKompareのブース

外国(日本)企業がMFS市場に新規事業参入する際の留意点

■ バングラデシュにおける外国からの投資枠組みについて 重要な法的要求

- 外国からの投資はすべて、会社を設立する前に、規定された方法により、関連する販売促進団体に登録されなければならない。
- 銀行、保険会社などの金融機関は、設立に際して、それぞれの規制当局から事前に正式許可を受ける必要がある。

■ 金融分野での起業について

バングラデシュでは、さまざまなタイプの会社が金融分野で事業を行なっている。中でも銀行、NBFIおよび保険会社がよく知られている。バングラデシュの金融分野は、一連の重要な法律や規則によって規制されていることがわかる。そのため、バングラデシュで金融会社を設立する際は、その種類や特性に応じて以下の法律および規則に従わなければならない

- 銀行会社法(1991年) ● 会社法(1994年) ● 産業政策(2010年) ● 金融機関法(1993年)
- 銀行会社法[改正](2013年) ● 保険法(1938年) ● 保険法(2010年) など

■ 銀行

- バングラデシュで法人化された公開有限責任会社でなければならない。
- 外国資本が参加する場合、バングラデシュ銀行に合弁事業契約書を提出しなければならない。

出所: バングラデシュ会社法



JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるかぎり正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。